

午後5時07分開会

○小野委員長 次に、継続審査となっております、⑧送付5-51、千代田区議会議員の定数・報酬・政務活動費の削減を求める陳情の審査に入ります。

本件陳情につきましては、昨年12月11日の当委員会で資料を配付して以来となっております。この間、署名者も増えている状況です。

本日の時点で、委員の皆様からご意見はございますでしょうか。

○春山委員 この陳情審査をするにあたって、資料要求をお願いしたいと思います。

現在の他区の議員定数削減の状況についての資料をいただきたいと思います。

区議1人当たりの人口、選挙人名簿登録者数、そして他区の前回の議員定数削減の状況、その削減した人数。現在検討されている区もあると聞いているので、その現在の進行中の状況等の一覧表をいただければと思います。

○小野委員長 はい、ただいま資料要求がありました。

事務局いかがでしょうか。

○小川区議会事務局長 ご趣旨の資料につきましては、要求者と調整をしたうえでご用意をさせていただきたいと思います。

○小野委員長 はい、それでは早めに用意していただきますので、用意でき次第、またこちらの委員会でということをお願いいたします。

ほかはいかがでしょうか。この件について。

○白川委員 今、議員を減らすとか、報酬を減らすというのが善みたいになっていますが、実際、千代田区的生活水準っていうんですかね、平均収入みたいなものを見ると、今の報酬が高いとは決して言えないと思います。というのが、自分の報酬を上げたいとか、そういうふうなのは別として、人材を集めるためには、報酬を下げることによってやはり質は低下するだろうというふうに思います。

前に、職員の収入の削減の案が出ましたけれども、それも同じように、もし千代田区が一番低い収入になってしまえば、当然公務員志望の人は、まず千代田区を当然省くわけですよね。それと、優秀な人間が千代田区の採用試験を受けなくなってしまうと。その結果、千代田区の職員の質が下がって、結局は行政のサービスのレベルが下がってしまうと。同じようなことが言えるので、まず、削減がいいか悪いかというのは、削減することが善みたいな前提というのは、私は止めるべきだと思います。

○小野委員長 はい、ご意見ありがとうございます。

今、報酬の件だったと思うんですけれども、ちょっとこちらもご意見がありました。

引き続き、手が挙がっていましたので、岩佐委員。

○岩佐委員 すみません。私も資料をお願いしたくて手を挙げたんですけれども。

先ほど春山委員のほうから、23区の状況ということだったんですけれども、23区の職員の数も併せて調べていただけたらと思います。

○小野委員長 はい。

こちらについて、事務局いかがでしょう。

○小川区議会事務局長 はい、ご用意させていただきたいと思います。

○小野委員長 はい、ありがとうございます。

こちら準備でき次第ということで。

○牛尾委員 この陳情審査の論点というのは、ちょっとまとめたほうがいいと思うんですよ。報酬については、特別職の報酬審議会で議論されていると。で、政務活動費においても、交付額等審査会で、どれが適正化というのが議論されていると。そうすると、この議運の中で審査すべきは、定数の問題なのかなと思うんで、これに集中した審査というのが必要なんじゃないかと思います。

○小野委員長 はい、ありがとうございます。

○米田委員 今のはまさにそのとおりかなと思いますんで。

で、ひょっとしたらいただいていたかもわかんないですけど、以前25名に定数削減した年と、その時の人口。この時の資料、いただいていたら大変申し訳ないんですけど、いただけていなかったら、ぜひいただきたいなと思います。

○小野委員長 はい、いかがでしょうか。

○小川区議会事務局長 はい、25名に定数を変更した際の資料につきましては、確認のうえ、準備をする方向で検討させていただきたいと思います。

○小野委員長 はい、ありがとうございます。

○小枝委員 800億の年間予算というものをチェックするという意味で、議会の費目というのは、だいたい今、6億か7億なんだろうかな。その、1パーセント以下なんですけれども、本当に数を減らすとか、そういう、あるべきはやはり議会改革だと思うんですね。議会が二元代表としてしっかりと活動できなければ、それが6億であれ、1億であれ、無駄になってしまうわけなので、本当は、こういった事件が起きていなければ、私はこういった陳情を議会改革特別委員会という形をつくって、その器に入れていくということが一番いいんじゃないかというふうに思っていた次第なんですけど、いくつもそんなものはできませんので、そういう意味では、何というんでしょう、10年でもいいんで、年間予算に対する議会費の推移というものをみていく必要があるだろうというふうに思っています。

その予算として、だいたい1パーセントとか言われていたと思うんですね。で、そこがしっかりと機能することによって、800億の一般財源が区民の幸せのために使われているのかどうかということにもなるので。本当は数字の問題じゃない、人数の問題じゃない、政務活動費をもらわなきゃいいという問題でもないと思っていて、むしろ政務活動費を十分もらうべきだと思っていて、広げちゃいけないと思いますので、今の段階では資料要求ということをお願いをいたしたいと思います。

○小川区議会事務局長 はい、資料のほうご用意させていただきたいと思います。

○小野委員長 はい、ありがとうございます。

たくさん資料の要求が出て来ましたが、先ほどこの議会運営委員会の中で三点、定数、報酬、政務活動費というものがある中で、論点を絞るべきではないかというご意見がありました。

今、予算というところも出てきたんですけども、基本的には第三者に報酬と政務活動費というところが委ねられているという側面もありますので、今後ここの議会運営委員会に陳情が送付されている以上は、この中でやりますけれども、一応、定数というところが主なものになってくるのかなあとと思いますけれども、そのあたりについては、皆様いかがですか。（発言する者あり）議会のあり方とか、議会改革とか、そのあたりのところももちろん、本当は全体の中の一つでのことではあるとは思いますが、（発言する

送付5-51陳情審査部分抜粋：令和6年2月7日 議会運営委員会（未定稿）

者あり）はい、承知いたしました。

まずは今回、いろいろな資料要求があったので、またそういった資料が出て来ることで議論が活発になると思いますので、引き続きお願いいたします。

それでは、本件陳情につきましても、継続審査とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小野委員長 はい。

以上で、⑧送付5-51の陳情審査を終了し、日程3の陳情審査を終了いたします。